

3 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現について

(財務省、国土交通省)

【内容】

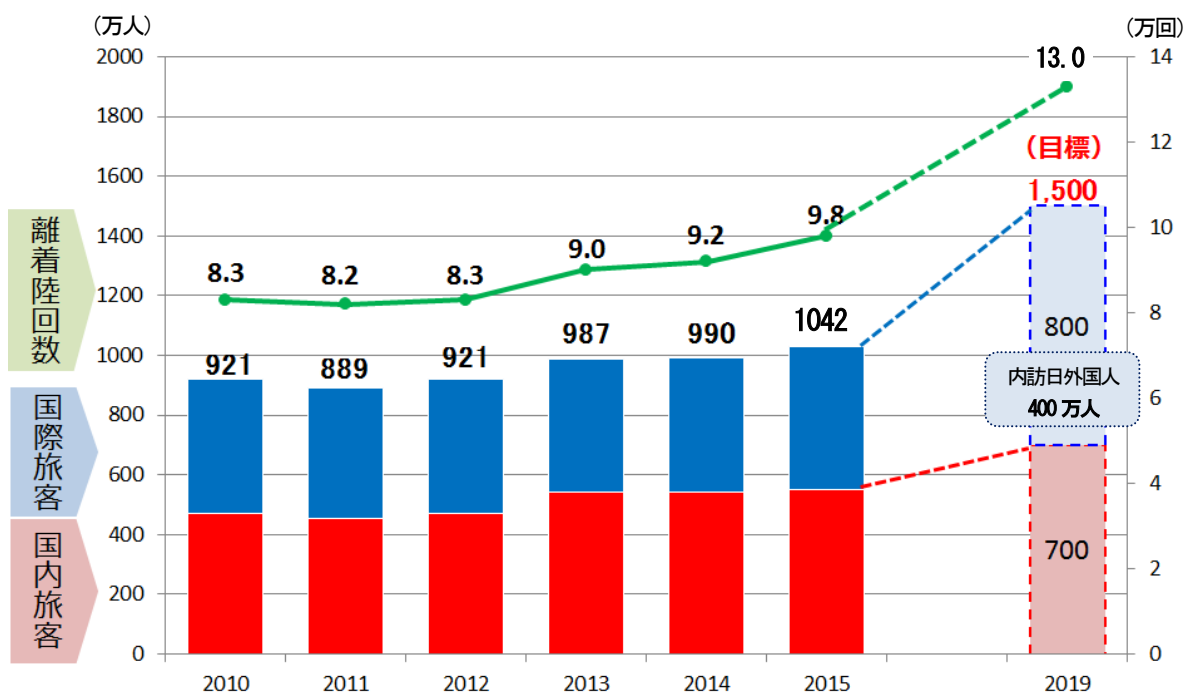
- (1) 国が地域を主導し、中部国際空港の機能強化、特に二本目滑走路の実現に向けて必要な調査検討に取り組むこと。
- (2) ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 急増する訪日外国人の受入に適切に対応するため、C I Q体制の充実・強化に取り組むこと。
- (4) 空港利用者の利便性向上のため、引き続き、道路・鉄道等アクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

- 中部国際空港は、2005年の開港以来12年目を迎え、国際拠点空港として我が国の航空輸送の発展の一翼を担い、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきた。昨年度は7年度ぶりに、航空旅客数が1,000万人の大台を回復し、中部空港会社では、2019年度までに、訪日外国人数400万人を含む航空旅客数1,500万人・国際航空貨物取扱量24万トン等の達成を目指している。
こうした中、新たにLCCの拠点化も予定され、着陸回数は今年度にも、また、航空旅客数も来年度には、過去最高の水準に並ぶ勢いとなっており、これに向け、2019年度の供用を目指し、新ターミナルビルや駐機場の整備を進めている。
- 国においては、訪日外国人旅行者数を、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年に4,000万人へ、2030年に6,000万人という新しい目標を掲げている。地域としても、伊勢志摩サミット開催の効果を活かし、この達成に向け、国とも連携・協力しながら、航空需要の拡大・航空ネットワークの充実に向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進、さらには、「第20回アジア競技大会」や「ラグビーワールドカップ2019」に続く各種国際スポーツ大会の招致等に取り組んでいる。
また、中部空港会社によるボーイング787ドリームライナー飛行試験機の屋内展示を核とする複合商業施設の整備に加え、我が国初となる空港に隣接した大規模展示場の整備が愛知県により進められることにより、さらなる利用者の増加等、大きな相乗効果が期待される。
- さらに、リニア中央新幹線の全線開通による巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や国の中枢機能の分担等を確実に担うためには、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の早期実現が不可欠である。
一方、空港運用面においては、滑走路が1本であることから、滑走路等のメンテナンス時間の確保が困難となることに加え、大規模補修の時期も迫り、また、ピーク時間帯を含め受入制約の発生が現実味を帯びてきた。こうした中、空港沖では「名古屋港で発生する浚渫土砂の新たな処分場」の有力な候補地として、計画が進められているところである。
- あわせて、今年度、新たなアクセスとなる西知多道路が事業採択されるとともに、知多半島道路を始めとする有料道路コンセッションが事業開始されるなど、アクセスの充実に向けた取組が着実に進められているものの、さらなる広域的なアクセスの充実が不可欠である。

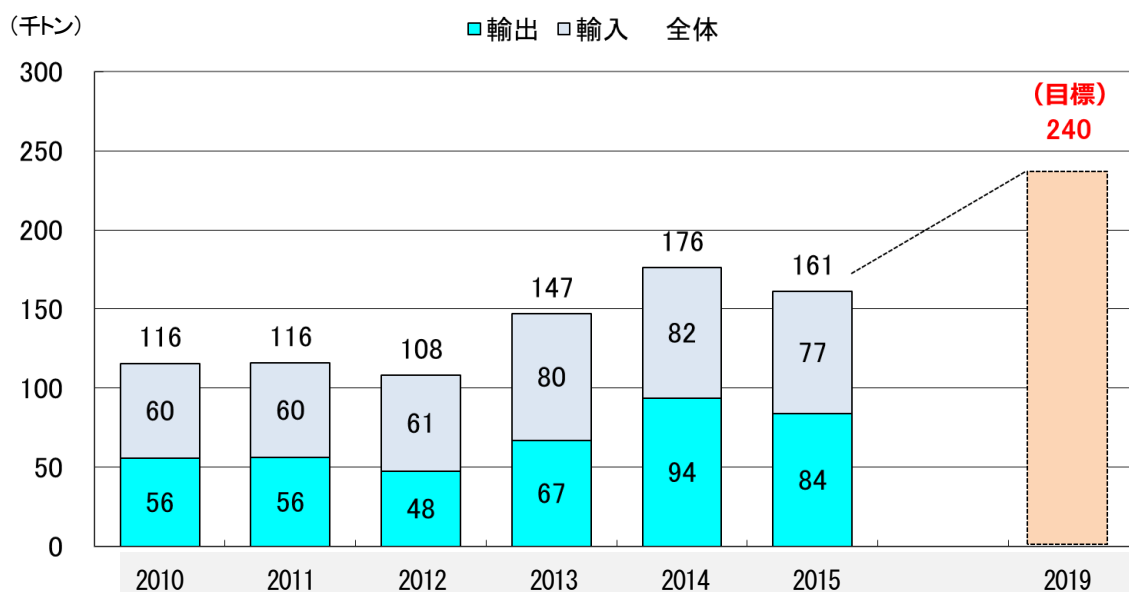
(参 考)

【中部国際空港の旅客数・離着陸回数の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の取組状況】

愛知県	訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化 海外でエアポートセールス等を実施 教育旅行における航空機利用の促進を実施
中部国際空港 利用促進協議会	ファミトリップ（旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘事業）など、 インバウンド需要の拡大事業の実施 広域観光周遊ルート形成促進など、受入環境整備事業を実施 輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業の実施 エアラインのPR支援や就航先でのプロモーションの実施